

かたつむり山発電所設置計画に係る環境監視及び事後調査結果（2025年度）

「かたつむり山発電所（仮称）設置計画 環境影響評価書」に基づき実施した、2025年度の建設工事期間中の環境監視及び事後調査の結果は、以下の通りです。

<環境監視>

環境要素		監視項目	実施内容
大気環境	騒音	工事関係車両等の運行状況	工事区域に入構した工事関係車両の台数は延べ21,484台でした。月当たりの車両運行が最大となったのは年9月で3,651台/月、日当たりの最大は6月21日で182台/日でした。
水環境	水質	工事排水の水質（浮遊物質）	トンネル工事時に発生した濁水については、起点側、終点側ともに濁水処理装置を通過させ、処理水については排水基準値内で排出していることを確認しております。また、基地周辺の側溝整備により基地の外から入ってくる雨水については、直接沢へ排水し、各基地内に溜まる雨水排水や土地造成工事及び車両洗浄等により発生する工事排水については、仮設沈砂池に集水し砂泥を沈降させ、上澄み水を沢に排出しました。なお、濁水処理装置を稼働させる必要がなかったため、同装置出口での浮遊物質量は測定していません。
	地下水の水質及び水位	トンネル湧水量	湧水量については、トンネル貫通後から測定を開始する予定でしたが、排水溝整備工程が遅れた影響で、昨年年11月末より開始しております。平均約300/min程度で推移していることを確認しました。集約データを蓄積し、季節変動等注視して参ります。
		トンネル湧水の水質（pH、重金属など）	トンネル貫通時（2025年10月地点）では排水溝が整備されていなかったため、トンネル内空部（側面、天端）からの湧水を対象にpHと重金属などについて自主的に計測を実施、排水溝整備後は湧水が集水される排水溝にて測定を開始しております。分析の結果、いずれの項目についても基準値内に収まっており問題ございません。pHについては、排水溝および国道398号線の側溝地点も併せて確認していきます。
		表流水の流量	トンネル掘削予定の山域を集水域とする3つの沢の流量を5回（5月～10月：月1回）測定しました。自然変動以外の変化は確認されませんでした。※7月、8月は記録的少雨の影響により欠測しております。
	温泉	温度、湧出量、泉質	周辺温泉（大噴湯、小安峡温泉、大湯）の温度、湧出量、泉質（成分）を4回（5月、8月、11月、2月）測定しました。自然変動以外の変化は確認されませんでした。

動物	重要な種及び注目すべき生息地	ハチクマ及びハイタカの生息・繁殖状況	ハチクマおよびハイタカを対象とする調査を3月～8月に実施しました。2025年度調査では、ハチクマ、ハイタカともに対象事業実施区域周辺での行動は少なく、ペアを識別できる行動は確認できませんでした。
廃棄物等	廃棄物等	廃棄物の処理状況	建設工事に伴い発生し法令に基づき適切に処分した産業廃棄物は総量約1638.5 t（主な廃棄物はアスコンガラ：46.4％、コンクリートガラ：38.4％、その他がれき類10.2％、木くず2.4％、廃プラスチック：1.6％、金属屑0.7％、紙くず0.3％、ガラスくず、陶磁器くず0.1％）でした。※数値は、小数点以下を四捨五入しています。

<事後調査>

環境要素		調査項目	実施内容
生態系	地域を特徴づける生態系	クマタカの生息・繁殖状況	3月～8月に調査を実施しました。昨年度とは別の営巣地を繁殖に利用しました。8月上旬まで成長による餌運搬、監視、鳴き交わしを確認し、今年の2月には2025年生れの幼鳥を確認しました。工事中も工事箇所周辺で行動しており、工事を忌避する様子は見られませんでした。

以上